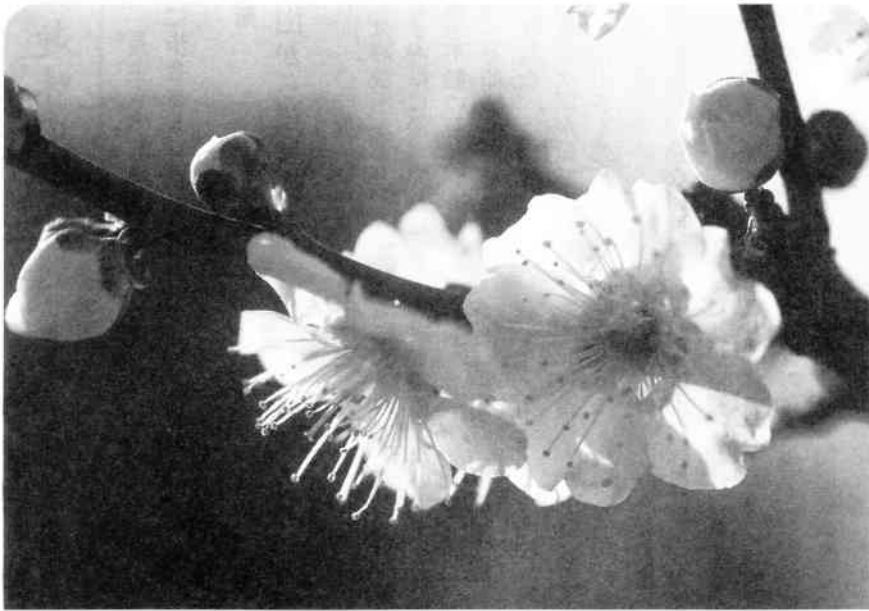


一つの「有」もなく 一つの「非有」もなかった

(リグ・ヴェーダ129番 寺田寅彦訳)



初蕾咲く 三溪園にて 撮影：杉本紀代治会員

退職者

こだま会報

NO.63



南極大陸でみられた皆既日食の様子をTVで見た。日本では一月二四日、朝七時すぎ、まず映し出されたのはドームふじ観測点の画面。そこは南極の昭和基地から一〇〇〇kmほど南極点の方向に行った所。太陽は左側から欠け始めた。五〇分かけて太陽は全部、月の影に入った。まっ黒い太陽！暗闇の中まわりを広く囲むコロナの白いゆらめきの中で、まさに真っ黒の円。皆既です」とアナの声。少したつと、急に左の何か所からいつもの太陽の光がバーツと洩れ出てきてダイアモンドリングが
黒い太陽を取り囲む。
そして少しずつ太陽
が現れ始めやつと普通の太陽に戻った。

皆既日食

自然の大きなわざ

「何もわかっていなかった昔の人はどんなに怖かったことだろう」と思いをめぐらしていると、TVはその時のペンギンの様子を映し出してくれた。アデリーペンギンの集団は卵を抱いたりしているものもいたが皆いつもの普通の様子でいたところに日食が始まった。少し太陽が欠けてきたが気づかない。当たり前！人間は知識で知っているから待ち構えて「始めの一步」から見ているのだ。そのうち暗さが増して来てついに一羽が声をあげた。するとあちからもこちらからも叫び声。「あれはペンギンの警戒の時の声です。」とのこと。ところが日食がすすんで太陽がだんだん元通りに近づいてくるとペンギン達はケロリといつもの普通の様子に戻った。あまりにあっけなく何事もなかった様な姿に、私の方があつげにとられてしまった。そうか、これが人間との違いなのだ。驚きとか恐れとか感激とか：それらをもとにして人間は考えて説明していく。その上、からくりが分かっても「やっぱり美しい！スゴイ！」と感激することができるのが人間なのだ、ととりともめなく思った今年の冬の始まりだった。(山本文子)

楽しい趣味の会

趣味の会は、長生きの散歩道 一緒に歩きましょう!!

歴史教室 散策

逗子披露山から鎌倉へ

一〇月二〇日、一〇時逗子駅に集合、今日のコースの説明があり、一六名で出発。逗子海岸に沿ってしばらくいくと、浪子不動の石碑があり徳富露花の名作「不如帰」の舞台になった海岸に出ました。

ここから、石原裕次郎が建てた裕次郎灯台が、遠くに小さく見えました。

次は赤い御堂の脇から、急な斜面を登り披露山へ出ました。

披露山の名は、その昔、頼朝の頃に各地から贈られてきた貢物を、ここで皆に披露したとかで、この名前がついたそうです。

ここで一息入れて、披露山公園住宅へ、ここは大きい家が建ち、住宅地入口に、交番がありました。この住宅地脇から、古道の面影が色濃く残っている、旧東海道に出ました。

大崎公園で、逗子の海を、眺めながらの昼食、とても美味しかったです。

午後は、天照大神宮・諏訪神社・仏乗院・須賀神社等の歴史ある説明を聞き、逗子、小坪の古道を歩き、古城跡に今も残っている抜け道を通って、和賀江島へと出てきました。ちようど、3時近くになり、今日の日程は終了です。

光明寺は次回にということになりました。私は初めての参加でしたが、中村先生のお話もおもしろく、お天気に恵まれて、楽しい一日でした。又次も参加したいです。(白井りつ子)

冬・風邪予防の薬膳

食文化を楽しむ会

一月四日(木)、上野多恵子会員の指導により風邪予防の薬膳をいたしました。冬は陰陽五行説からは水の行に属し、自然界は陽消陰長、人体は陽虚陰寒となり、体のエネルギー代謝は低下し腎の気が不足し、さらに冷えが加わり、関節痛や風邪が起こり、また老化も進みます。これらに対して冬の薬膳では補陽として肉桂、ニラ、くるみ、栗、海老、羊肉、鶏肉、冬虫夏草、杜仲、温補として葱、生姜、大蒜、唐辛子、胡椒、山椒、芥子、紅茶。補腎として粟、小麦、黑豆、胡麻、蓮の実、キャベツ、桜桃、スッポン、いか、あなご、

鯉、豚肉、卵等食事は暖かい物を中心とします。薬膳によく使われる生薬としては黄耆、当帰、党参、紅花、金針菜、金銀花、枸杞子、五味子があります。

当日の献立は百合根・生姜入り御飯。大根・人参・きゅうり・きくらげ・柚子入り菊花なます。海老・卵・牛乳・紅花入りコロッケ。山芋・人参・豚腿肉・葱・何種類もの

茸、黄耆の入ったきのこ汁で、大変体が暖まりました。今回は年金組合の方々も含め一六名の参加がありました。



(亀井禎子)

一 一月 碁会は2回も開催
囲碁同好会

会報六二号の編集ミスで、碁会の開催予告を二日と九日の日曜日とダブって知らせてしまいました。幹事困っていたところ、知恵者がいるもので両方開くことになりました。両日も六、七名の参加でした。

清里に近い山梨の山奥から、安土さんが参加されました。片道四時間少々かかる由。友に会い、好きな碁が打てるなら、八時間の道も何のその。全く感激、これ以上嬉しいことはありません。(木村)

お詫びして訂正いたします

会報62号の編集は、少し集中力が欠き誤りが多くなりました。次のように訂正いたします。

2 頁2段18行目

今年で13回目↓14回目

3 頁1段後から9行目

11月9日↓2日

3 頁1段最後の行ルビ
登。豊吉↓のぼる

7 頁4段6行目3字追加
山茶花に鳥入れ替る幾度も

予告!! 予告!! 予告!!

● 囲碁同好会

とき 毎月第一日曜日11時
ところ 囲碁サロン 有心

横浜駅西口キヤメロッ
トジャンパン14階

会費 六〇〇円

申込み こだま会事務局

TEL 045-212-3179

登 豊吉

TEL 045-824-7155

● こだま句会の俳句教室

楽しく分りやすく、実作中心で
す。初心者大歓迎!!

とき 毎月第3木曜日 13時

ところ こだま会事務局(県職労内)

講師 山本つぼみ先生

会費 五〇〇円

申込み こだま会事務局(火)

TEL 045-212-3179

小川政則

TEL 045-742-2253

● 食文化を楽しむ会

健康によい薬膳料理をつくり味
わいます。講師は上野多恵子会員
です。

とき 夏、冬の年2回
費用 一、八〇〇円程度

● 歴史教室

年4回の教室(講義2回・散策
2回)を計画しています。会費一、
〇〇〇円で毎回ご案内をお送りし
ます。

問合せ こだま会事務局(火)

TEL 045-212-3179

● 第五回文学・歴史紀行

『太平記』の舞台を歩く

主なコース

東勝寺跡(北条一族滅亡の地)

―宝戒寺(北条高時屋敷跡)―東

光寺跡(鎌倉宮)―永福寺跡(足

利軍が宿坊を本陣に利用)―理智

光寺跡(大塔宮護良の墓所)―釈

迦堂口切通し(中世の雰囲気によ

く残る切通し)―足利氏屋敷跡

日時 5月5日(土) 一〇時

場所 鎌倉駅東口集合

参加費 三〇〇円(拝観料別)

その他 弁当・飲み物を持参

雨天の場合は中止

ガイド 生方武羅夫会員

申込み 生方武羅夫

TEL 045-823-2166

こだま会事務局(火)

TEL 045-212-3179

高齢者保健福祉研究会

「社会保障制度の利用は国民の
権利であるが、制度の適用を受け
る資格があっても、国民の側から
申請をしない限り制度を利用する
ことができません。高齢者には高
齢者特有の各種の社会保障制度
(年金、医療、福祉、介護保険な
ど)があります。

研究会は、高齢者がどうい
う場合に、どのような制度を利用でき
るのか、どのように手続きしたら
いいかなどについて調査研究し、
『高齢者保健福祉の手引き』(仮称)
を作成するという目的で研究会が
始まっています。

「自立自助」の名のもとに高
齢者いじめがされている今、「自立
自助連帯」の本当の力を見せて、
望まれる必要な制度をつくり運用
して、高齢者の生活を実り豊かな
ものにしたいたいです。

この手引きは2年位の期間で完
成を予定しています。研究会の代
表は生方武羅夫、書記は山本文子
です。参加希望の方はご連絡を。

(山本)



こだま俳壇 (11・12月作品)

湯川 勉
遠く白嶺談合坂にバス疎ら
秋深し老いて介護を学ぶ日々
新井 白象

短か日や干物売る子ら店仕舞う
寄せ鍋に昨日と今日を投げ入れて
鈴木志げ子

米をとぐひたすらにとぐ冬の夕
訪れし佳き友ありて菊日和
本山 文子

山あいの柚子なる里を一人旅
秋雨や齢を感じてデモの列
横川美代子

ダム湖畔ソリー輝く冬入日
海原のように波寄せすすき原
島田多嘉子

いびつなる母の折鶴冬寒し
秋の昼江戸道徳ぶ一里塚
塚本 正隆

冬霧に掛声響く朝掃除
肅と読む喪中はがきの友偲び
白石 為康

今はなき横座の父や谷戸の家
秋深し蜂が蜂さすスズメ蜂
小川 水草

糸切れし老いの奴(やつ)とほざく妻
牛追うて自分を探す冬の霧

追悼 田辺貫布枝遺詠二句
ほうたるの点すに影のなかりけり
ほうたるや手を掠めしは亡夫ならむ

会員紹介

繭・糸くり・真綿

生き生きと難波ハマさん



蚕業センターに勤務していた難波さん、何年か前の総会の時に自作の繭玉人形を持参して、みんなに分けて下さったのが、印象的でした。お元気でいろいろ活躍と聞き、生活ぶり元気のもとを伺って来ました。

蚕業センターに四五年

蚕業センターには、昭和三二年から平成五年、非常勤で退職するまでの四五年勤めました。

戦後間もない、物の無い時代だったので、繭を煮るにも石炭が無い、ポイラーが使えない、仕方が無いので、外に釜を作り薪を燃して、繭を煮ました。糸くり用の繭は無いので玉繭を使って真綿を作りました。それを糸にして靴下を編むというのが仕事でした。

今も真綿作りを

かつての真綿作りの経験を買われて、「手作り真綿講習会」の講師を頼まれました。この催しは、横浜のシルク博物館が主催し、日本真綿協会も協力して、毎年一回行われていくものです。



真綿をのばす—シルク博物館にて

学生や一般の人達に実際やって頂くのですが、なかなか難しく出て来ません。でも、出来上がった時の喜びは格別ようです。また出来た真綿は、そのまま持ち帰ることが出来ます。シルク博物館で、夏休み子供向けに繭人形も教えています。

地元で、子供とともに

厚木の小学校でも繭を使って、人形や真綿、糸くりをしています。蚕から飼って繭を作っています。すごく良い繭が出来るのです。それは地元の養蚕農家の方が桑の葉を蚕に

持ってきて下さっているからです。出来た繭を利用して糸くり、繭人形、真綿に分かれて勉強します。自分の顔に似たウサギを作る子供、真綿を二人で引つ張り合って大喜びしている子供、本当に楽しそうです。三月には、父母も参加して作品発表会が開かれます。嬉しいのは子供達が私に感想文を書いてくれることです。この仕事をしていて良かったとしみじみ思います。

多彩な趣味— 舞踊、大正琴

畑・ガーデニング—

舞踊は、藤間流の流れを汲む藤坂流の新舞踊と日本舞踊をやっています。一〇年以上やっていますけれども、家庭の事情で東京まで習いに行けなくなり、残念だったので止めました。でも、踊りが好きでどうしてもやりたくて、厚木市の民謡協会に入りました。現在月二回の民謡踊りですが、とても楽しいですね。今年の厚木市の観光まつりに出演しました。(写真参照)頼まれれば盆踊りを教えにも行っています。

大正琴も、そうなのです始めて五年になります。左手を使い右脳を使うので、健康に良いと始めました。最後に畑仕事やガーデニングです。畑にはじゃが芋・さつま芋・里芋を作っています。年を取ったら体に良



いものをと、あしたば・ウコン・どくだみ・びわと、その材料を使って、お茶にしたり、化粧水を作ったりと利用しています。

庭は花一杯にしたいと思っています。最近、チューリップ・カサブラオンカ・水仙を植えました。水仙は球根を掘り上げて植え替えています。

・凄いかサブランカまでも、たくさん蕾がつくと、鉢植えにして公民館に持って行きます。

お話を聞いてみると、休む暇もない位、体を動かしていらっしやいます。真綿で作ったマフラーや小物はみな人にあげて仕舞う由、今度も真綿の肌磨きを頂きました。お忙しいか、とても若く澆刺とお見受けしました。

(大貫多喜子)

昨年一月一七日に発表された厚生労働省の二〇〇四年「年金改革」案は、私たち国民にいつそうの負担増と給付減を押しつけるものです。

保険料：年収の20%まで引上げ

厚生労働省案は、いまの厚生・共済年金保険料（年収の13・58%、労使折半）を今年から毎年引き上げ、二〇二二年度に年収の20%まで値上げします。保険料の引き上げ幅は年0・354%で今年一〇月から毎年引き上げられます。平均的な被保険者（月収三六・七万円、ボーナスは月収の三・六か月分）で、毎月約六五〇円、ボーナス一回あたり約一五〇〇円の値上げとなります。これが20%になると約一九万円の負担増となり、保険料額は年間約五七万円で月収の一・五倍も取られることとなります。

給付：賃金の59%が

50%に引き下げ

一方、退職後に受け取る給付は減らされます。厚生・共済年金は、現在四〇年加入の夫婦のモデル年金で現役世代の所得の59・4%が給付されています。これを一〇年間かけて54・7%へ引き下げます。給付水準

許すな年金大改悪

は8%の削減となり、月額二万六千円のモデル年金（夫婦）の場合、年間二万六千円の減額に相当します。ほぼ一か月分の年金給付を削ろうという改悪です。

さらに、物価スライド制により、給付額は厚生・共済年金のモデル年金の場合で、来年度は二年連続で0・2〜0・3%（年間五六〇〇円〜八五〇〇円）削減されるようとしています。



マクロ経済スライドを導入

さらに、「改革」案は、経済情勢の悪化にスライドさせて給付水準を引き下げる仕組み（マクロ経済スライド制）を導入します。これまでは一人当たりの平均賃金が上がれば、その分、新規の年金受給者の給付額は伸びていく仕組みとなっています。これを一人当たりの賃金伸びても、賃金全体の合計が減って

いれば、それにスライドして給付額を減らすようにするものです。少子化の進展による労働者数の減少（保険料の収入減）を、給付減に連動させようという改悪です。それも国会審議もなしに自動削減できるように転換するものです。

国の負担：引上げ先送り

消費税増税軸に検討

各種の公的年金の土台となる基礎年金の国庫負担（現行三分の一）を二分の一に引き上げるのが今回の制度改定の焦点となりました。「改革」案は、この点について「将来に向けた道筋を明らかにする」とだけ述べて、本当に実施するのかどうかもあいまいです。五年間で段階的に引き上げる先送り案が検討対象とされました。

二分の一引上げには二兆七千億円の財源が必要ですが、「改革」案ではその手段もあいまいです。政府税制調査会は一月一日の総会で、高齢者が受給する公的年金への課税拡大や個人住民税引上げなど、増税を進めていくことを確認。さらに、一八日の総会で、基礎年金の財源確保策は、将来の消費税率引上げを軸に検討を進めることを確認しました。

「年金改悪を許さない」

運動に参加を！

今回の年金制度改悪に反対する全国の運動が大きく発展してきましたが、神奈川県下では、神奈川県労連・年金者組合などが学習会、宣伝・署名、決起集会などの行動に立ち上がっています。年金改悪をやめさせるために、私たちも連帯して行動しましょう。

（日原輝）

保健情報

入浴中の突然死：予防策七つ

寒い季節はご用心、入浴中の突然死は交通事故の二倍とも言われます。予防のための対策は

- ①家族と同居の時、声をかけてから入浴
- ②脱衣場と浴室の温度差を少なく
- ③冬場の熱い湯での長湯は避ける
- ④湯に首までつからない
- ⑤飲酒後や食後、すぐに入らない
- ⑥入浴後は水分を補給
- ⑦高血圧や脳血管系、循環器系の疾患、糖尿病などを持つ人は日頃から入浴には注意が必要

一人暮らしの 終の棲家

有料老人ホームを選ぶには

際の故障を抱えてエレベーターの無い3階のマンション暮らしは、そろそろ体の限界が来ると、二、三年前から有料老人ホームにはいることを考えはじめました。

有料老人ホームは増えている介護保険法が施行されてから、ケア付きシニアマンションなどと称した有料老人ホームが増えています。これは介護の利用料が施設に入り、安定した経営をもたらすことからだそうです。

「ケア付き」は自立した人のための「健常型」と、介護が必要な「介護型」のセットで、自立不可になると「介護室」に移ります。両方は病院とともに連動していますが、同一敷地の中に設けられているところ、事業者の複数の「健常型」の施設から、別の場所「介護型」へ移るところなどあります。

03年九月現在の施設の状況は、全国 八九〇

内訳 有料老人ホーム 六七〇
高齢者住宅 二二〇

で、七月に比べて住宅は変化がありませんが、ホームの方は六〇も増えています。(暮らしと住まい・調べ) 関東一都六県

では、ホームと住宅合せて四三〇が四四七に増え、そのうち東京の一三四→一四二、神奈川一四八→一五一が大半を占めています。

「終身利用権」とは

生涯にわたって居室と共用部分を利用する権利と、ホームが提供するサービスを受ける権利です。この権利をうる為に「入居一時金」を払います。

「入居一時金」とは

考え方として「家賃の前払い」に値するもので契約者本人一代限りの入居権を得る為のもので、税金はかかりません。償却年数があり退去する時期によって返還金が戻ったり、二人入居の場合追加入居金が必要となるホームが多い。

「終身利用権」が割高になるか割安になるかは、寿命に拠るので最後に息を引き取る時でなければ分かりません。

「入居一時金」の

価格の決め方

現在、この一時金は約五〇万円から約五億円とピンからキリまであります。売れ残ったワンルームマンションを改造してフロントと食堂、共同浴場をつけてホームとしたケアの付かない所から、豪華なホテル並みの高級感をそそるケア付きホームなどがあります。一時金は、①ホームの建設用地の価格と建設費 ②共用部分の延床面積の広さ で決まります。安くても他の名目の費用が別途必要になる場合もあるので要注意です。

どう選べばよいか

先ず情報を知ること。「重要事項説明書」や「管理規定」その他パンフレットで一次情報を掴みます。大事なのは文章化されていないソフト面です。経営者の理念、職員の質、ホームの雰囲気、介護の質や食事などの二次情報です。

これを知るには体験入居をすることです。交通や周囲の自然は勿論のこと、ホームの雰囲気、サービスの様子など肌で感じることです。厳寒期と酷暑期の二回、一人で行ったほうがよいそうです。友人などと一緒だと雑音に影響されるとの事です。

入居適齢期は六五歳から七五歳位、判断力、決断力、行動出来るエネルギーのあるうちがよい。なにしろ、

身の回りの荷物を三、四割に減らし、引っ越ししなければ!

また、体験入居は三ヶ所くらいのホームを続けて体験すると良いとも言います。

色々調べて、自分の身の丈にあった、ここなら暮らせそうという所を、エイヤと決めるのが肝要でしょう。

ホームが倒産したら?

ホームを運営する事業主体が倒産するとホームも倒産です。しかし、分社や合併、経営引継ぎによって事業主を変更してホームを存続するの一般的なですが、サービスの低下はまぬがれません。また、逆に良くなるケースもあるそうです。

(参考)

(株)暮らしと住まい

有料老人ホーム展示場

(銀座サロン)

銀座歌舞伎座東隣り。相談窓口があり、資料や情報が入手できます。

TEL 03-5550-0125

E-mail yuroten@yorim.or.jp

(社)全国有料老人ホーム協会

全国的な動きが分かります。神奈川県での加盟団体は7ホームで、共同してPRの講演会など行っています。

TEL 03-3272-3781

(木村武子)

県職労退職者こだま会は一九八五年(昭和六〇年)三月十五日「退職者厚生会」として加入者二〇名で産声をあげ、今年は一、二〇〇名を超えた会員で二〇周年を迎えます。こ

みんなで楽しく祝おう記念事業
こだま会結成20周年を記念して

だま会幹事会では、二〇周年を「みんなで楽しく祝おう」と二〇周年記念行事実行委員会(委員長長川井副代表幹事)をつくり、三回の論議を経て具体的な事業計画を練りました。

2 実行委員会は、企画委員会(座長鈴木事務局次長)と記念誌発行委員会(座長木村副代表幹事)に分かれます。企画委員会は、レセプションと一年間の記念事業を計画し実施し

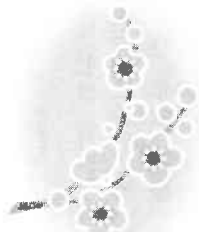
ます。記念誌発行委員会は、二〇周年の記念誌を発行します。

★現在までに決めたり論議したこと

- ①総会とレセプションは別の日に
行なう。(総会は六月、レセプションは一〇月頃)
- ②記念誌は九月末の発行予定。みなさんが参加する文集を企画する。
- ③パソコンを導入し、会員データベースを管理する。
- ④長寿の会員のお祝いをしよう。
- ⑤ビール工場の見学・試飲と温泉旅行の楽しい企画。
- ⑥それぞれの趣味の会で記念事業を考える。

★記念事業の委員とアイデア募集

会員が楽しく諸事業に参加出来るよう、ボランティアで実行委員になって頂ける方を募集します。会員が楽しく参加出来る行事のアイデアを募集します。



原稿募集

あなたの想いを残しませんか
二〇周年記念誌へ！

こだま会が成人になった今、過ぎし日を振り返り、未来を展望する、会員参加の『こだま会二〇周年記念誌(仮)』の出版を企画しました。書評誌のようなハンドメイドで手軽、親しみやすく読みやすい、A5、一二〇頁程度の冊子を記念出版し、みなさん全員にお贈りしたいと取り掛かっています。

様々な職種の仕事、あるいはこだま会や組合の活動に、永い間育んできた自治体公務員としての想いを、後輩の若き職員に語り継ぐことを目指しています。

構成は、会の歴史と文集に分かれ、文集の原稿をみなさんから募ります。

◆募集の内容

*エッセイ 先に述べた想いをこめて、次のテーマで原稿をお願いいたします。

- ①私を変えた人、こと
 - ②在職した職場と私
 - ③今、これからどう生きるか
- 原稿は、一二〇〇字程度
(四〇〇字詰め用紙3枚)

*詩歌 エッセイと同じ視点で、次

のものをお願いします。

- ①俳句 二句まで
 - ②短歌 二首まで
 - ③詩 一詩(二〇行程度)
- 応募の期限 三月末

字数・文章について、編集上多少手を入れることがありますのでご了承ください。

作品の送り先・問い合わせ先
こだま会事務局
☎045-212-3179

〒231-0023 横浜市中央区山下町57-1
神奈川県職労内



名古屋の自然―丹沢の雑木林・
棚田の復権と生き物たち

NPO法人自然塾丹沢

ドン会企画・編集
夢工房刊(ブックス9)
定価四八五円十税

今年3月の第八回丹沢シンポジウムのまとめです。丹沢山地のはずれ秦野市名古屋、丹沢の自然、里山の暮し、動物たちとの共存の大切さを述べます。(朝日新聞'03・12・20から)

高齡期運動

日本高齡者大会

輝け、いのちと憲法のこころ

このスローガンのもとに第一七回日本高齡者大会が九月二八日、二九日の二日間、浜松市のアクトシティを主会場に第一日二、七〇〇人、第二日二、三〇〇人の参加者で開催されました。

大会の記念講演は、高齡姉妹で有名な蟹江さんさんの主治医をつとめた室生昇先生で、「皆さんに学ばず百歳まで生きる健康術」と題しての講演で「医療保障は長生きに不可欠」という点を強調されました。

全体会では「医療と年金の史上最悪の改悪に抗議し、撤回を求める決議」と「高齡期運動を地域から活性化させましょう」の呼びかけが採択されました。

二日目は二二の会場で学習講座、シンポジウム、分科会が開かれ、どの会場も熱気いっばいの盛況で参加者に感動と高齡期運動への新しい息吹を与える大会となりました。

なお、神奈川からの参加者は四〇四人で、開催地静岡の七六〇人、東京の七五〇人に次ぐものでこだま会からも地域からの参加も含め六人が参加しました。

◇自治労連県退職者会総会

一〇月二七日(月)午後二時から横浜市従会館に於いて第一二回総会が開催され、年金、医療、福祉制度の改悪を阻止するために高齡期運動への参加と自治体退職者相互の交流を深める活動方針を確認しました。

また、役員には引続いてこだま会から、会長加藤、事務局次長川井、幹事秋中、叶井、会計監査山本の五名が再選されました。

なお、総会にはこだま会から一三名が参加しました。

◇年金改悪反対署名の集約報告

去る一〇月一四日、会報と共に署名をお願いした請願署名は一月九日現在で、署名用紙返送三六一人、署名筆数一、〇九一筆となりました。

なお、今回も返信用切手は各自負担でお願いした訳ですが別に数枚の八〇円切手が署名用紙と共に同封されたものが三通もあり、胸があつくなりました。

ご協力本当にありがとうございます。

◇城田会長

年金対話集会で主張

九月六日(土)東京虎の門ホールで厚生労働省主催の年金対話集会が

開かれ、私たちこだま会も加入している全国自治体退職者会連絡会の城田会長が発言、主張された内容を紹介します。

○政府が年金制度に対する国民の信頼回復を言うのであれば、国会で約束した基礎年金の国庫負担をただちに実施すべきである。

約東は破るが保険料の引上げと支給年金の引下げだけは行なうという無責任な姿勢では、国民の信頼は得られるはずがない。

○少子社会で掛金を払う人が減少し、年金制度が危機だ、と言うが、これも約束した六〇才定年制の行政指導を強め、支払層を拡大し、さらに年金支給年齢の六五才に改善すべきだ。

○厚生年金基金による株投資によって六兆七〇〇億円もの損失を生じているのに誰一人責任を取っていない。この無責任さを改め、厚労省は責任を取るべきである。

また、年金基金への官僚の天下りも廃止すべきだ。

大略以上の点について城田さんは中心を年金制度に対する国民の不信はあげて政府の責任であることを明らかにし、その無責任さを追求されました。

この対話集会における感想を城田さんは次のように話されています。

「会場からの発言指名はわずか五名でしたが、私の発言に対して官制の公聴会とも思えぬ多くの拍手を受けました。」

出席された方々は立場は違っても安心して老後をおくれる年金制度の確立を望んでいることを実感しました。」

こだま会での署名でもまた、城田さんの発言からも私たちはあきらめず、言うべきことは発言し、行動すべき時は動く、その大切さを改めて教えられました。(事務局加藤)

編集 後記

・世の中がかなりキナ臭くなってきました。戦争はもう御免だ。憲法9条を大切にしましょう。

・脳のMRI検査を受けました。脳梗塞の痕跡がある由、でも誰にでもある老化現象といわれなんとなく納得。電磁波の働きは凄いですね。

・寒さのおりから、風邪にご注意を、健康第一に過ごしましょう。(木村)

編集・発行
県職労退職者こだま会
発行人 生方武羅夫
発行日 2004.2.1

No.63

〒231-0023

横浜市中区山下町57-1

神奈川県職労内

TEL 045-212-3179(代表)